

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公開特許公報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-157744

(43) 公開日 平成10年(1998) 6月16日

(51) Int.Cl.⁵

B 6 5 D 33/06

識別記号

F I

B 6 5 D 33/06

審査請求 未請求 請求項の数1 書面 (全 5 頁)

(21) 出願番号 特願平8-354272

(22) 出願日 平成8年(1996)11月29日

(71) 出願人 597005989

徳永 毅

山口県柳井市大字新庄12-20

(72) 発明者 徳永 毅

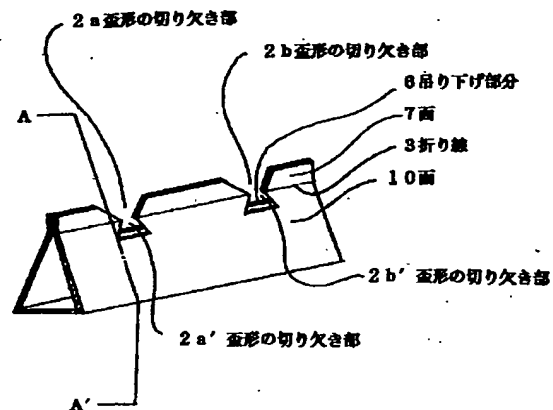
山口県柳井市大字新庄12-20

(54) 【発明の名称】 段ボール製手提げポリエチレン袋用組立式取っ手

(57) 【要約】

【課題】 安価な材料を使用し、簡単な加工で、買い物時に商店から提供される手提げ式ポリエチレン袋を、手を痛めることなく楽に持つことができるようにすること。

【解決手段】 方形の段ボール材(1)の横目の平行の2辺に、盃形の切り欠き部(2a、2a'、2b、2b')を設け、方形の段ボール材(1)の表面に折り線(3、3')を設け、裏面に折り線(4、4')を設け、これを折り線(4、4')に沿って組み立てることにより、中空三角柱の構造体を作る。



【特許請求の範囲】

【請求項1】 方形の段ボール材(1)の横目の平行の2辺に、盃形の切り欠き部(2a、2a'、2b、2b')を設け、方形の段ボール材(1)の表面に折り線(3、3')を設け、裏面に折り線(4、4')を設け、これを折り線(4、4')に沿って組み立てることにより、中空三角柱の構造体を作ること、段ボール製手提げポリエチレン袋用組立式取っ手。

【発明の詳細な説明】

【0001】

【発明の属する技術分野】この発明は、商店等で買い物時に提供されている手提げ式ポリエチレン袋に、重量物を入れて持ち歩く時に使用する、手の痛みを防止するための、段ボール製手提げポリエチレン袋用組立式取っ手に関するものである。

【0002】

【従来の技術】従来より、買い物をすると商店から手提げ式ポリエチレン袋が提供され、客は購入したものをこの中に入れ、手提げ式ポリエチレン袋の手提げ部分の帯を握って持ち帰っていた。

【0003】

【発明が解決しようとする課題】しかし、この手提げ式ポリエチレン袋は、握ると手提げ部分の帯が一点に集中しやすいために手に食い込みやすく、重量が重くなるほどその現象が強く現れるという大きな欠点を有するものであり、手が痛いために荷物が実際の重量以上に重く感じられた。本発明は、以上の欠点を解決するためになされたものである。

【0004】

【課題を解決するための手段】方形の段ボール材(1)の横目の平行の2辺に、盃形の切り欠き部(2a、2a'、2b、2b')を設ける。そして、方形の段ボール材(1)の表面に折り線(3、3')を設け、裏面に折り線(4、4')を設ける。これを折り線(4、4')に沿って折り、中空三角柱の構造体を作る。本発明は、以上の構成よりなる段ボール製手提げポリエチレン袋用組立式取っ手に関するものである。

【0005】

【発明の実施の形態】以下、本発明の実施の形態を説明する。

(イ) 方形の段ボール材(1)の、横目の平行の2辺に、盃形の切り欠き部(2a、2a'、2b、2b')を設ける。

(ロ) 方形の段ボール材(1)の表面に折り線(3、3')を設け、裏面に折り線(4、4')を設ける。

(ハ) 折り線(4、4')に沿って折り、中空三角柱の構造体を作る。

本発明は、以上の構成よりなっている。本発明を使用するときは、折り線(4、4')に沿って折り、中空三角柱の構造体にした後、盃形の切り欠き部(2a、2

a')と盃形の切り欠き部(2b、2b')に、それぞれ手提げポリエチレン袋の帯(5、5')を引っ掛け、図4に示すように、人差し指と中指の間及び薬指と小指の間に、手提げポリエチレン袋の帯(5、5')を挟むようにして本発明の器具を持ち上げることにより、以下に述べる作用からしっかりと三角構造体ができあがる。

【0006】図5に示すように、商品を入れることで重量を得た手提げポリエチレン袋が、組み立てられた本発明の器具の吊り下げ部分(6a、6a'、6b、6b')に吊り下げられることにより、手提げポリエチレン袋の帯(5、5')は、袋部分に入れられた商品の重量によって一点に集中しようとする力を発生するため、吊り下げ部分(6a、6a'、6b、6b')及び中空三角柱の面(10、10')は、内側に押し倒されようとする力を得る。それに伴い、表面に設けられた折り線(3、3')によって作られた面(7)及び面(7')は、お互いが押し付けられ、支え合うことで力の均衡を得、倒れるのを防ぐことになるために三角構造体を作り出す。

【0007】このことは、商品の重量が大きくなるほど面(7)及び面(7')を内側に押し付ける力も増すので、段ボールの素材としての強度の限界までは、商品の重量に応じた強い押し付ける力で三角構造体を作り出すことが可能となる。そのため、本発明の器具自体が、特に三角構造に固定するための仕掛けを持たなくても、吊り下げた手提げポリエチレン袋に入れられた商品の重量により、重量に応じたしっかりと三角構造体ができあがる。

【0008】また、表面に設けられた折り線(3、3')によって作られた面(7、7')により、密着面積が広くなるため、器具のずれによる三角構造体の崩壊を防ぐことが可能である。尚、折り線(3、3')は、商品の重量によって三角構造体ができる際に自動的に折られ、面(7)及び面(7')を作り出す。

【0009】さらに、図6に示すように、盃形の切り欠き部(2)は、手提げポリエチレン袋の帯(5)が入れ易く且つ外れ易く、さらに、手を放しただけでは外れないように、上部の帯導入部(8)が広く、下部の帯収納部(9)が狭いという、大小二つの台形の上底同士を組み合わせた盃形をしている。従って、盃形の切り欠き部(2)の下部の帯収納部(9)に手提げポリエチレン袋の帯(5)を挟むことにより、運搬途中でいったん袋を降ろすことなどの、本発明の器具に荷重がかからない状態が起こっても器具が脱落するのを防止し、本発明の器具が大きく口を開くことはないので、再度持つときに持ちやすい。本発明の器具が、器具自体を三角構造に固定するための構造を必要としないのは、荷重が掛からない状態においては、手提げポリエチレン袋の帯(5)を帯収納部(9)に挟むことで簡単且つ必要程度の固定を

させているからである。

【0010】また、方形の段ボール材(1)の、横目の平行の2辺に、盃形の切り欠き部(2a、2a'、2b、2b')を設けることで、手提げポリエチレン袋の帯(5、5')を吊り下げるための吊り下げ部分(6a、6a'、6b、6b')は段ボールの縦目となり、吊り下げた重量物に対抗するための、素材上の強度を得るうえで有利である。

【0011】以上のことから、荷重が掛かる掛からないにかかわらず、使用中は安定して三角構造体を作り出すことが可能であり、使用前は一枚の平らな板状なのでかさ張らないために収納性が良い。

【0012】

【実施例】以下、本発明の実施例について説明する。図7に示すように、切り欠き部の形を、漏斗形の切り欠き部(11)にし、下底の両端に切り込み(12)を設けた形にしてもよい。この形状により、帯導入部の機能はそのままに、帯収納部(9)をより狭くできるので、手提げポリエチレン袋の帯をより強く挟むため、本発明の器具に荷重がかからない状態のときの三角構造の維持に、より効果的である。さらに、下底に設けた切り込み(12)により、下底にかかる荷重が分散するため、荷重に対する吊り下げ部分(13)の破損を防止するうえで効果がある。

【0013】また、図8に示すように、漏斗形の切り欠き部(11)の根元部分の両側にぎざぎざ部(14)を設け、下底の両端に切り込み(12)を設けた形にしてもよい。この形状により、手提げポリエチレン袋の帯(5)との接触面が、ぎざぎざ部(14)によってさらに大きくなるので摩擦係数が増し、ずれにくくなるため、本発明の器具に荷重がかからない状態のときの三角構造の維持により効果がある。

【0014】

【発明の効果】本発明の実施により、手提げポリエチレン袋に重量物を入れて持ち上げても手が痛くないので、快適に買い物をすることができるようになる。また、一枚の段ボールという安価な材料ででき、簡単な加工で収納性の良いものができるため、資源の再利用等により、使い捨ての器具としても使用できる。さらに、段ボールの素材としてのクッション性から使用感が良い。

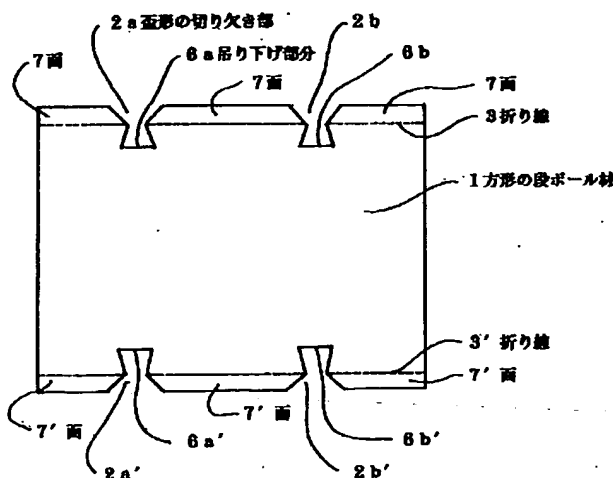
【図面の簡単な説明】

- 【図1】 本発明の表面の展開図である。
 【図2】 本発明の裏面の展開図である。
 【図3】 本発明の組み立て完成時の斜視図である。
 【図4】 本発明の使用中の側面図である。
 【図5】 本発明の使用状態を説明するA-A'断面図である。
 【図6】 本発明の部分図である。
 【図7】 本発明の他の実施例を示す部分図である。
 【図8】 本発明の他の実施例を示す部分図である。

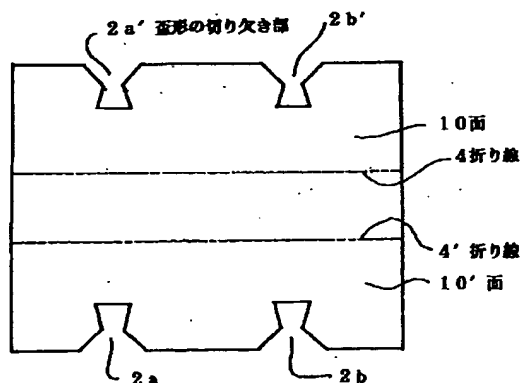
【符号の説明】

- 1 方形の段ボール材
 2 盃形の切り欠き部
 3 折り線
 4 折り線
 5 手提げポリエチレン袋の帯
 6、13 吊り下げ部分
 7、10 面
 8 帯導入部
 9 帯収納部
 11 漏斗形の切り欠き部
 12 切り込み
 14 ぎざぎざ部

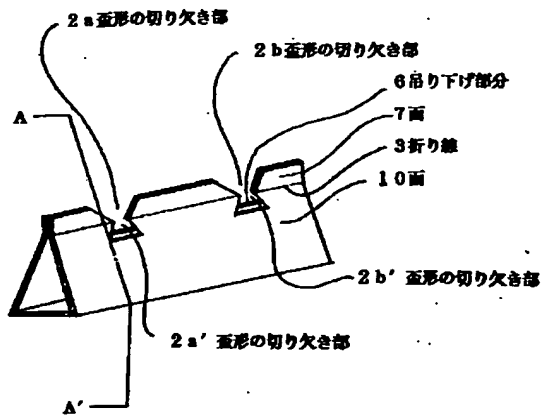
【図1】



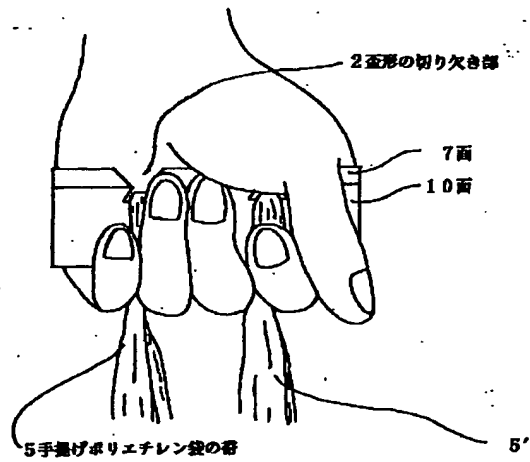
【図2】



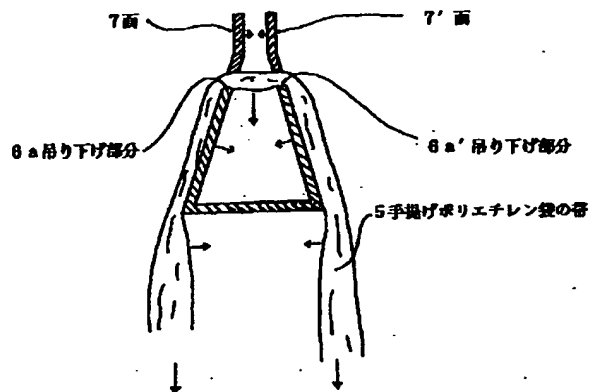
【図3】



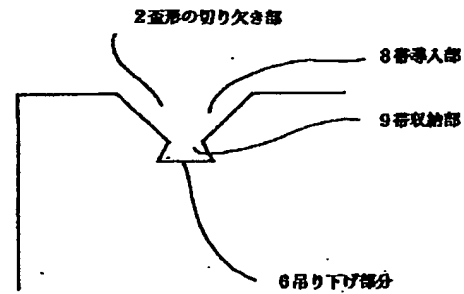
【図4】



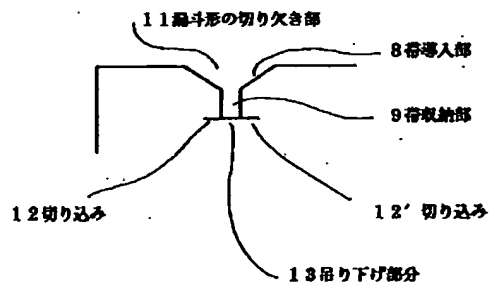
【図5】



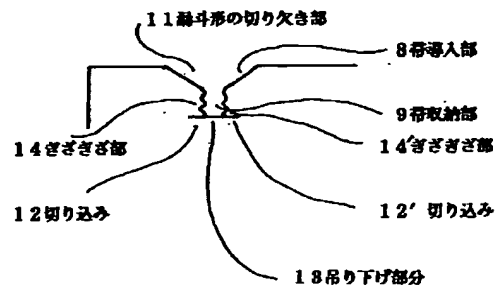
【図6】



【図7】



【図8】



【手続補正書】

【提出日】平成9年3月27日

【手続補正1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】0013

【補正方法】変更

【補正内容】

【0013】また、図8に示すように、漏斗形の切り欠き部(11)の根元部分の両側にぎざぎざ部(14)を設け、下底の両端に切り込み(12)を設けた形にしてもよい。この形状により、手提げポリエチレン袋の帯(5)との接触面が、ぎざぎざ部(14)によってさらに大きくなるので摩擦係数が増し、ずれにくくなるため、本発明の器具に荷重がかからない状態のときの三角構造の維持に、より効果がある。また、図9に示すように、切り欠き部分の形状を変形の切り欠き部(15a、15b)にし、角に丸みを持たせた形にしても良い。この形状により、帯導入部の間口が広がるために手提げポリエチレン袋の帯が差し込みやすくなる。さらに、底辺(16a、16b)が弧をなしているので、商品が入れられた手提げポリエチレン袋の帯は、重量によって滑り落ちるようにして切り込みの先端部分(17a、17b、17c、17d)に移動し押し付けられるため、帯がしっかりと保持されるために、本発明の器具に荷重がかからない状態のときの三角構造の維持に効果がある。

また、丸みを持たせた形にすることにより、使用感が向上する。

【手続補正2】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】図面の簡単な説明

【補正方法】追加

【補正内容】

【図9】 本発明の他の実施例を示す部分図である。

【手続補正3】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】符号の説明

【補正方法】追加

【補正内容】

【符号の説明】

15 変形の切り欠き部

16 底辺

17 切り込みの先端部分

【手続補正4】

【補正対象書類名】図面

【補正対象項目名】図9

【補正方法】追加

【補正内容】

【図9】

